Takarazuka

Takarazuka
-minamiguchi

Sakasegawa

Obayashi

Nigawa

映画「阪急電車 片道15分の奇跡」ロードショー記念
今津線（西宮北口～宝塚間）開業90周年記念

ええはがきコンテスト 今津線

入選作品集

Index

阪急今津線ええはがきコンテストについて	1
最優秀賞　写真部門	2
最優秀賞　絵画部門	3
歴史・思い出賞	4
学生優秀賞	5
審査員賞　有川　浩先生	6
審査員賞　有野永霧先生	7
審査員賞　井上正三先生	8
大阪ええはがき研究会賞	9
宝塚駅周辺の作品	10
宝塚南口駅周辺の作品	12
逆瀬川駅周辺の作品	14
小林駅周辺の作品	17
仁川駅周辺の作品	19
甲東園駅周辺の作品	21
門戸厄神駅周辺の作品	23
西宮北口駅周辺の作品	27
阪神国道駅周辺の作品	31
今津駅周辺の作品	33
審査員の先生方からのメッセージ	36

本作品集では、作者の敬称は略させていただいております。

ごあいさつ

映画「阪急電車　片道15分の奇跡」の舞台となった阪急今津線沿線は、豊かな自然や落ち着いたまちなみ、歴史的な資産等さまざまな魅力にあふれています。今回のコンテストは、映画のロードショーを記念して、そして今津線の西宮北口～宝塚間が2011年9月3日で開業90周年を迎えることを記念して開催したものです。

海外のまち等では、さまざまな絵はがきが発行されており、まちを訪れた人だけでなく、絵はがきを受け取った人にも、まちの魅力を効果的に伝える役割を果たしています。このコンテストでは、まちの魅力を発信するツールとしての「絵はがき」に着目し、さまざまな方の発見した地域（まち）の魅力や作者の思いを凝縮した絵はがきである「ええはがき」を募集いたしました。

この作品集は、このコンテストに応募いただいた約900枚のええはがきの中から選ばれた、54点の入選作品を掲載しています。

この作品集を通じて、みなさま方に今津線沿線の魅力を再認識していただくことができたなら、そして作品をきっかけにまちで実際にその魅力を再発見する楽しさに気づいていただくことができたなら、私どもにとって大きな幸せです。

2011年9月

ええはがきコンテストのホームページ（http://rail.hankyu.co.jp/eehagaki/）では、今回のコンテストの全入選作品のデータがダウンロードできます。また、2010年に開催した宝塚線・箕面線沿線のええはがきコンテストの入選作品もダウンロードすることができます。

阪急今津線ええはがきコンテストについて

募集作品

豊かな自然や歴史的資産、さまざまな活動など、いろいろな視点から見た阪急今津線沿線地域の魅力を写真やイラストなどで切り取り、それらに対する思いやメッセージをそえた絵はがき「ええはがき」を応募していただく。思い出の中の風景等を対象にした作品や、複数枚のはがきをセットにした作品の応募も可。

作品募集期間

2011年3月25日～6月3日

賞

最優秀賞　写真部門・絵画部門	各1点
歴史・思い出賞	1点
学生優秀賞	1点
審査員賞	3点
大阪ええはがき研究会賞	1点
各駅賞（宝塚駅～今津駅）	各1点
佳作	36点

審査員（敬称略）

有川 浩（作家）、有野永霧（写真家）、井上正三（画家）、杉本容子（大阪ええはがき研究会）

主　催：阪急電鉄株式会社
共　催：阪急阪神ホールディングス株式会社
後　援：兵庫県、宝塚市、西宮市
協　力：大阪ええはがき研究会
特別協力：西宮市宝塚市内郵便局、阪急西宮ガーデンズ

●ええはがきとは．．．

ええはがきは、「大阪ええはがき研究会」が提唱するまちの魅力を発信する絵はがきのこと。写真やスケッチに加え、作者の思いを伝えるコメント、撮影・スケッチした場所の地図が載っているのが特徴です。

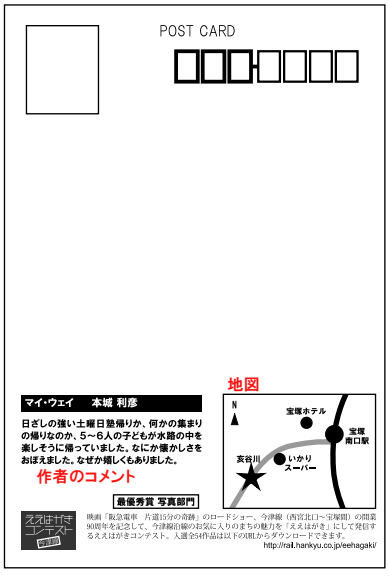
ええはがきの3つの楽しみ方

見て楽しむ：この作品集を見て、沿線のええスポットを再チェック！

行って楽しむ：ええはがきの作品の舞台は、阪急今津線沿線。ええはがきを片手にまちの魅力を探しに行ってみよう！

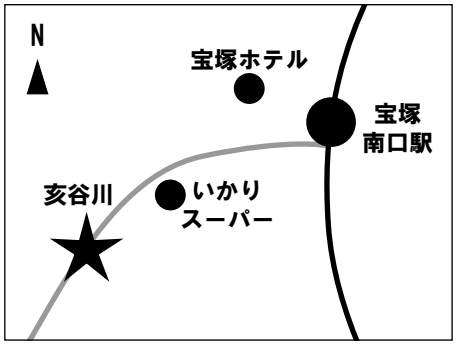
送って楽しむ：ええはがきはもちろん葉書として活用OK。送って、あなたのまわりの人にまちの魅力を発信してみよう！

写真・スケッチ



マイ・ウェイ　　本城 利彦

日ざしの強い土曜日塾帰りか、何かの集まりの帰りなのか、5～6人の子どもが水路の中を楽しそうに帰っていました。なにか懐かしさをおぼえました。なぜか嬉しくもありました。

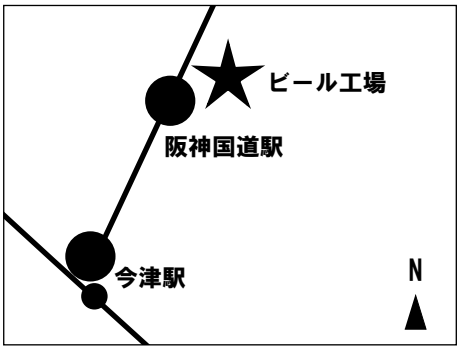


審査員講評

薫風を感じる新緑の中を、アドベンチャー好きの少年たちが探検ウォークを楽しんでいる。どんなところにも自分たちの世界を発見する子どもの好奇心の豊かさが感じられ、健康的でさわやかな作品です。光の明暗のコントラスト、遠近感の効いた構成、振り返った少年の顔と手足の動きなどの的確な把握によって作品のクオリティーを高めています。（有野永霧）

ビール工場　　奥村 誠

3年程アサヒビールの前のマンションに住んでいました。風向きによってはビールのいい香りが流れてきました。撤退するそうですが、寂しいことです。

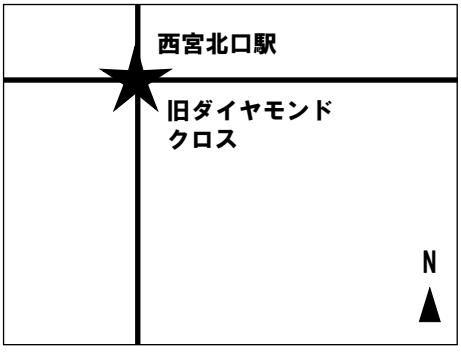


審査員講評

絵の中に物語を感じるという意味で一番印象に残りました。このイラストが装丁になった本が書店の平台に並んでいたら手に取ってみたくなります。この青い絵の中にシンプルな白抜きでタイトルが入っていたら素通りできません。自分ならどんなタイトルでぐっと来るだろうと考えるのも一興です。（有川 浩）

懐かしいダイヤモンドクロス　　中筋 格

鉄と鉄がぶつかり擦れあう音が懐かしい。電車は本線が3000系、今津線は2000系と800系だ。

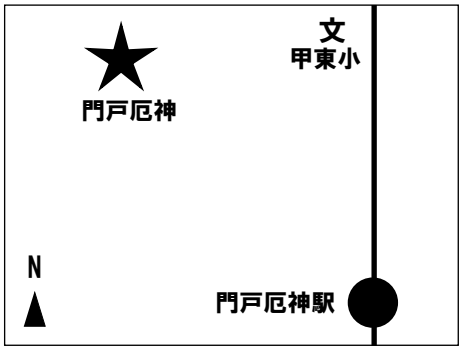


審査員講評

何とも懐かしい風景、もう二度と見られないこの風景をよくぞ絵にされました。思い出の中に探り当てたこの交差の瞬間を力ある確かな筆致で表現されています。重量感ある車両が今まさに縦横に重なり合うこのワンショットは、確かに当時の平面交差の瞬間です。懐かしいドラマを見る思いです。車両の製造年代もしっかり把握され、作者の思い入れが感じられます。（井上正三）

狸　　河内谷 滉介

まるで誰かを見送っているみたい。

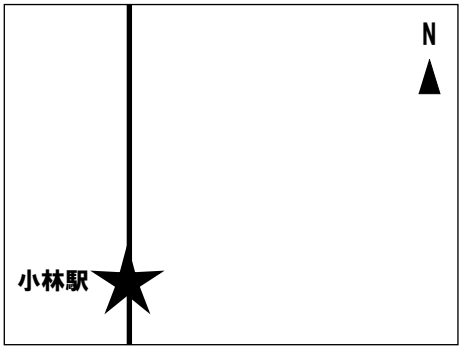


審査員講評

厄払いで有名な門戸厄神。境内にたたずむ狸たちを見つけて、「まるで誰かを見送っているみたい」とこっそり楽しむ作者の遊び心が楽しいですね。遠近感を活かしたシーンの切り取り方がうまく、手前の狸を見て後ろの狸たちが口々にしゃべっているように見えてくるから不思議です。（杉本容子）

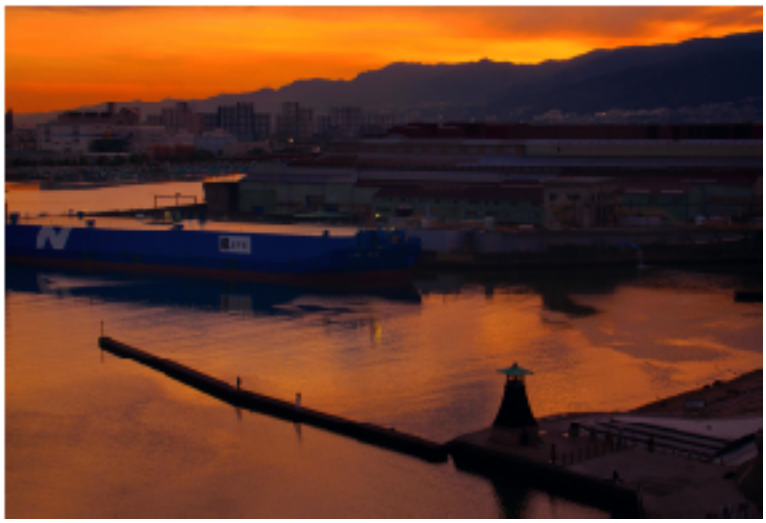
雪の小林駅　　RINOT

突然降り積もった雪の中、駅員さんが無言でホームの雪かきをしておられました。爪先が凍えそうな寒さでしたがどんな観光名所にも替え難い、この街の「宝」をみた気がして心温まったひとときでした。



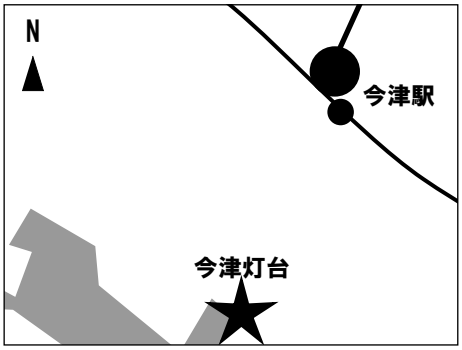
審査員講評

今年の冬は「片手手袋拾得箱」が登場した小林駅。大雪の日、雪かきも黙々と。こういう実直な駅員さんがお客さんに寄り添ったキュートなアイデアを出しているのかと思うと気持ちが和みます。このまま映画のスチールになれそうな一枚です。（有川 浩）



時を超えて　　谷川 憲一

今津港を静かに見守り、今日もその灯をたやすことなく、航路標識として今でも立派にその役目を果たしています。この今津灯台は歴史的にも貴重で木製灯台としては日本最古の現役灯台だそうです。

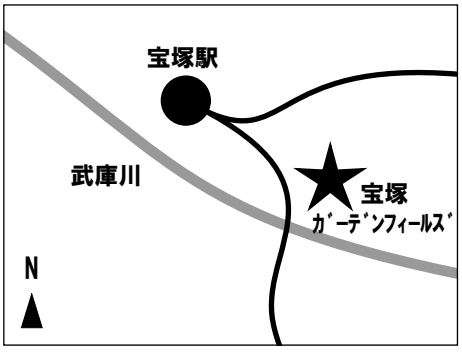


審査員講評

今津灯台は、歴史建造物の少ないこの地域でも特に貴重な記念物です。色が独特の雰囲気をかもし出す日の出前、日の入り後の微妙な光線を生かして、美しい風景写真に仕上げている。色の対比も良く、空間構成も見事で、瀬戸内海の旅情が心地よく感じられる秀作です。（有野永霧）

初夏のテラス　　大久保 智子

スイレンの咲き始めた頃の池のそばのテラスに風がふきぬける。さわやかな一日。気持ちよくスケッチしました。

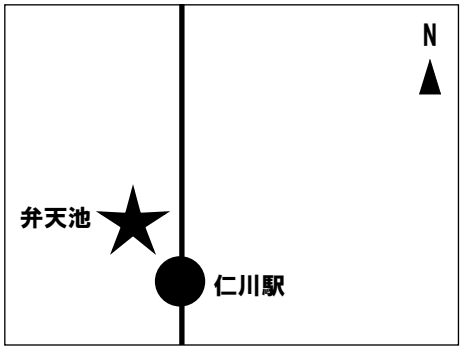


審査員講評

鋭い陽光と深い木立を背景に、整然と並ぶ手前のテラスチェアーの静けさがグンと心に響きます。縦版でカットされた構図がこの絵のテーマの清閑さをより強調して見せているようです。省略的に描かれた左の温室がいい脇役で効果的な構図を作っています。サージェントを思わせる筆捌きに感嘆してしまう作品です。（井上正三）

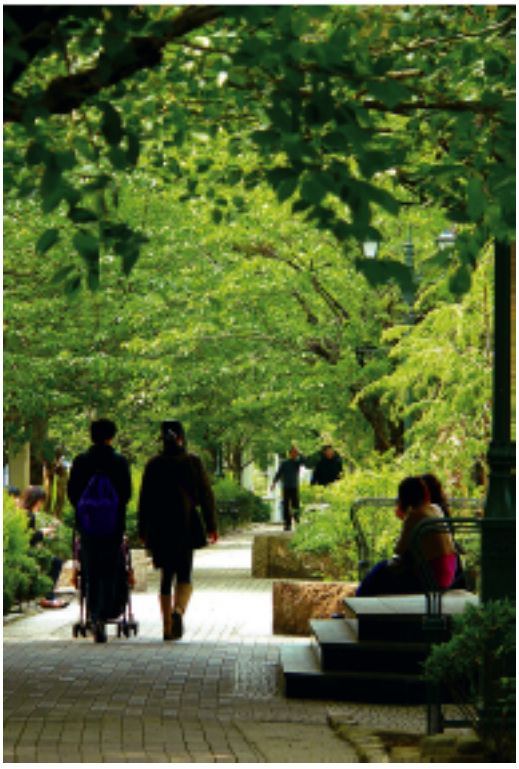
幸せの弁天池　　大森 慈子

みんなが集い心癒される「幸せの弁天池」は私のパワースポットです。桜の季節に親子3人で三脚を立て記念撮影している姿を見かけ、とても微笑ましく幸福な風景だと思ったので絵にしました。



審査員講評

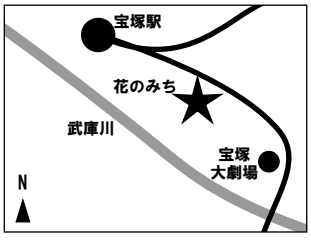
桜が咲き乱れる春の休日、近所の公園に三脚を持ち込んで親子で記念撮影をする。その何気ない日常の幸せな一コマを見て、人々が心和む場所。そんな弁天池を「パワースポット」と表現する作者の感性が光る作品です。明るい色使いもぱっと目を惹き、楽しい気持ちになります。近所のお気に入りの場所へ記念撮影に出かけてみたくなりますね。（杉本容子）



みどり色の道　水上 毅

色彩豊かな花のみちも桜のシーズンが終わると、新緑が鮮やかなトンネルになる。行き交う人の穏やかな感じが印象的である。

宝塚駅賞

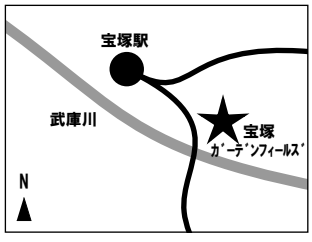


審査員講評 「花のみち」といえば桜のイメージですが、季節が変われば違った顔をみせます。そんな季節の移り変わり、並木の表情のバラエティを楽しむ目線が素敵な作品です。まちのシンボルストリートを普段使いし、豊かな緑とともにくつろぐ人々の姿が、暮らしやすいまちの魅力を伝えています。（杉本容子）

初夏のテラス　大久保 智子

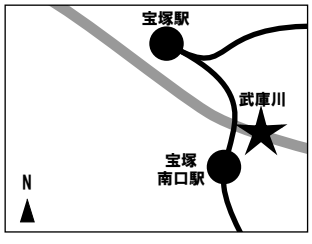
スイレンの咲き始めた頃の池のそばのテラスに風がふきぬける。さわやかな一日。気持ちよくスケッチしました。

審査員賞
井上正三先生



朝日の輝やき　山口 政行

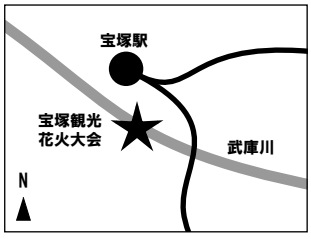
出勤時、宝塚駅を降りて宝来橋に向かった。丁度、朝日が武庫川下流から昇って来る瞬間だった。ホテルの建物に朝日が鏡のように映しだされていた。荘厳な光景となっていた。



※以降のページで、賞の記載のない作品は、佳作に選考されたものです。
※作品の最寄駅は、作者が最寄駅としてお考えになられた駅を基本としています。

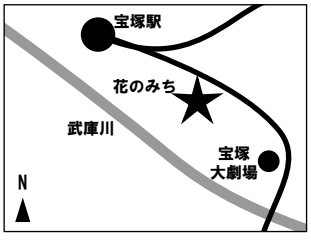
宝塚花火大会　　前川 敏夫

池田五月山から望遠レンズで撮りました。子どもの頃は庭先に出たら家からでも見えました。それから半世紀近く。毎年の楽しみです。



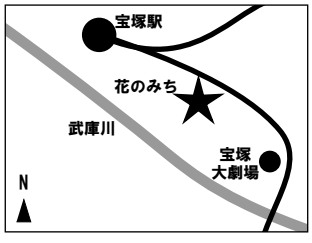
黄昏　　松浦 修一

生瀬から武田尾まで旧福知山線廃線跡ハイクに行った帰り道、宝塚で途中下車して散策中すでに日が暮れかけて残念でしたが「花の道」をカメラに収め帰宅してから描いたものです。おしゃれな町並みで又行ってみたいです。



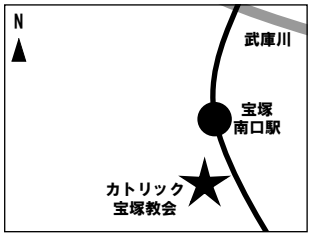
花の散歩道　　松本 淳

明るく撮りすぎたのですが、それが逆にさわやかな不思議写真になりました。花に囲まれた人々の休日が表れていて大好きな一枚です。ぜひはがきにしてみたい写真です。



隘路　　福島　吾郎

線路脇の隘路に、昔懐かしい路地裏の風情が香ります。鉄粉が染込んだような壁と、そこから続く趣が異なる建築物。見てるはずはないのに、幼い頃に見たような気がする、なんとも不思議な空間でした。



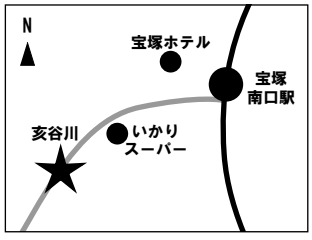
宝塚南口駅賞

審査員講評 頬に触れるほどの側壁は重量感があり、狭隘の通り道を印象づけています。狭い通路を行き着くと、まるで駆け上るようにそそり立つ尖塔が鋭利で、画面に大きな緊張を作っています。構成もよく明暗のゾーニングも魅力です。作者が言われるように不思議な空間ですが、宝塚南口駅を降りて探して見たくなるドラマチックな通路です。（井上正三）

マイ・ウェイ　　本城　利彦

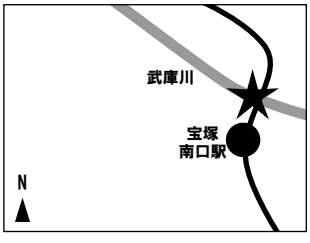
日ざしの強い土曜日塾帰りか、何かの集まりの帰りなのか、5～6人の子どもが水路の中を楽しそうに帰っていました。なにか懐かしさをおぼえました。なぜか嬉しくもありました。

最優秀賞 写真部門



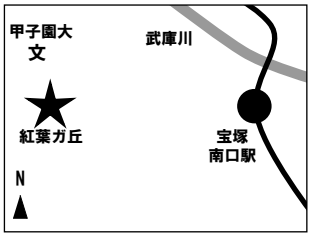
「生」2011　　平木　吉彦

阪神大震災からの復興、街と人の再生を願った「生」の文字。東北地方太平洋沖地震にて被害に会われた方にお見舞い申し上げると共に、同様に必ず復興できると信じています。



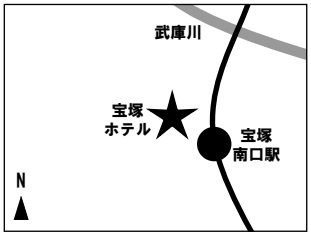
大劇場・桜・日の出　　橘 和秋

桜の咲く4月になって、ようやく宝塚大劇場の上のあたりから日の出が見られるようになります。「大劇場・桜・日の出」の絶景は紅葉ガ丘からしか望めません。紅葉ガ丘は宝塚南口駅から徒歩約30分です。



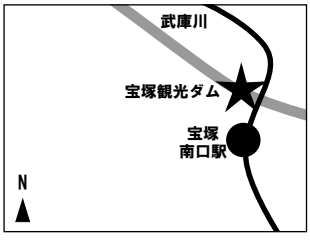
宝塚ブライダル　　仁井 祥子

成人式はここで記念撮影。結婚式も、宝塚ホテルでできたらいいのに❤見てるだけで幸せなピンク絨毯、シャンデリア…。



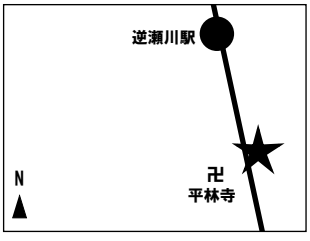
流れ…永遠に　　前川 敏夫

前日の雨で水量を増した武庫川の流れ、ダム湖から落ちる水流が幾何学的で面白かったので。



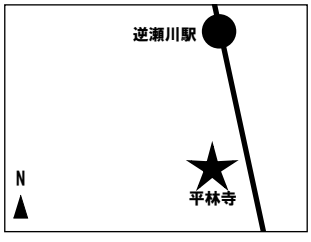
阪急電車が似合う風景　　シェリダン　陽子（3枚組）

夫と今年の1月から阪急沿線に住み始めました。夫はアメリカ人ですが、熱心な仏教徒なので、平林寺周辺はとても興味深いらしく、一緒によく散歩しています。私もなんだか心が落ち着く不思議な場所です。

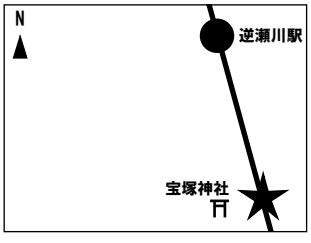


逆瀬川駅賞

平林寺の階段をあがったところで、掃除していた住職さんが、阪急電車の撮影があった場所を、ゆっくりとした日本語で夫に教えてくれました。2月初旬、はじめて来たときには黄梅が綺麗に咲いていました。



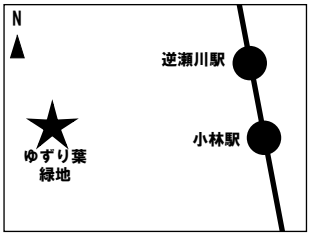
アメリカ人の夫は散歩が好きで、地元なのに私が知らない場所を見つけては、よく案内してくれます。再発見！踏切の向こうの急な坂をあがると、意外と小高い場所に見晴らしのいい宝塚神社があります。



審査員講評 どこからカメラを構えたらこの構図になるのか、探しに出かけたくなる作品です。モノクロ写真が一番難易度が高そうです。逆瀬川に知り合いがいたら「同じ場所を探してみよう！」と一筆入れて送っても楽しいですね。それが気になる人なら「探しに行こうよ」と誘うのもアリです。（有川 浩）

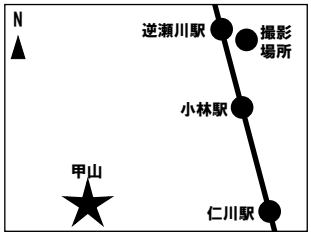
憩いの緑地　　原田 勝之

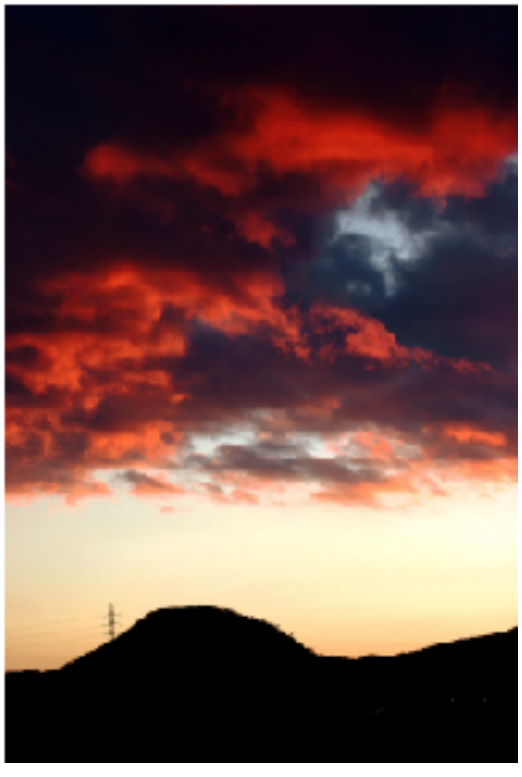
「砂防史跡モニュメント」は逆瀬川が砂防の発祥地である事から建てられたもの。又、「鎧積堰堤」は日本近代砂防史上有数の構造物である。そして、阪神淡路大震災の鎮魂の碑が建ち、ゆずり葉緑地は市民の憩いの場である。



甲山　　永井　正規

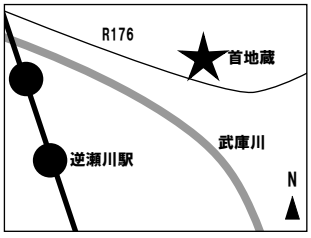
今日も一日ありがとう！太古の昔から阪神地域を見守っている。多くの地域の人々の憩いの場でもある。緑豊かになってうるおいの源。みんなのやすらぎの甲山である。





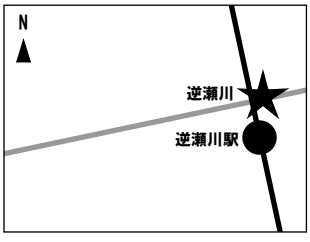
首地蔵　　小出 広邦

小浜宿の手前の坂を上る途中に2体の巨大な首だけの地蔵さんがある。首から上の病気を治していただけるとか。その異様な姿にひかれてシャッターを切りました。



せせらぎ絵画　　叶谷 晶美

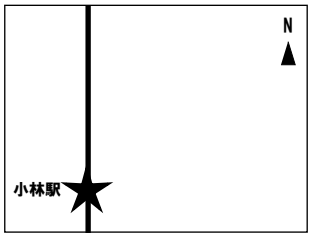
逆瀬川を橋から覗き込んだら川に模様が出来ていたので一枚撮りました。モザイクのような模様が印象に残っています。



これからも、阪急　　水上 毅

小林駅前の踏切で、おじいちゃんに抱かれた小さな子がじっと阪急電車を見つめていた。このあたりのお子さんにとっては、電車といえばこれからも阪急なんだろうな。

小林駅賞

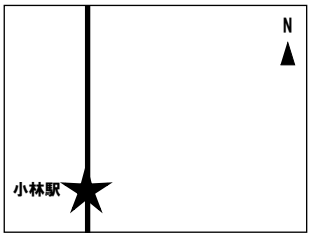


審査員講評 駅前の踏み切りでよく見かける風景です。おじいちゃんが、孫に電車を見せに出かけてきました。孫は動物園の象さんを見るときのように電車に魅了されている。その顔を覗き込むおじいちゃんの姿から、至福の感情が伝わってきます。沿線の多くの人が、このようなささやかであるが貴重な体験をしておられるのではないでしょうか。（有野永霧）

雪の小林駅　　RINOT

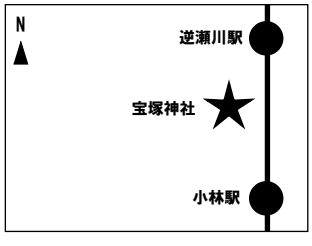
突然降り積もった雪の中、駅員さんが無言でホームの雪かきをしておられました。爪先が凍えそうな寒さでしたがどんな観光名所にも替え難い、この街の「宝」をみた気がして心温まったひとときでした。

審査員賞
有川 浩先生



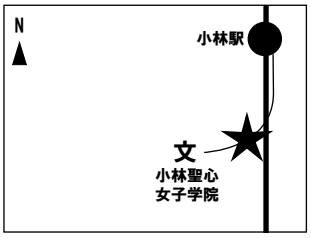
願いをこめて　　水上 毅

ここは、宝塚神社。絵馬に願いをこめて多くの人が訪れる。未来のタカラジェンヌも第一歩はここから？



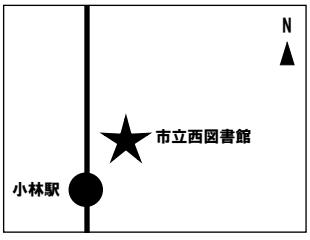
すみれの花咲く路　　中原 文雄

宝塚のマンホールは美しい。アンジェラスの鐘の音が聞こえる。



私の町の図書館　　片芝 由香

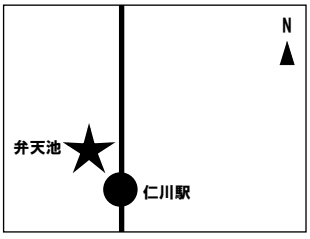
小さいころから本が好きでした。でも図書館といえば清荒神まで行かなくてはなく、西図書館が出来た時は徒歩で行ける図書館が、大変嬉しかったことをよく覚えています。



車窓の風景　　林 由紀

弁天池～甲山を臨む風景、阪急電車内より撮影しました。毎日変化する風景に、いつも元気を貰っています。

仁川駅賞

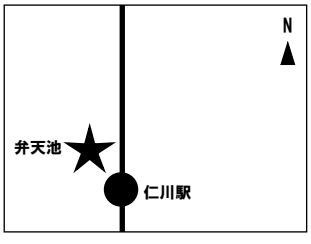


審査員講評 弁天池はこんなにさわやかで透明感があったのですね。水面に映る緑や建物が風のない好天の静けさを見せてくれています。四季折々に変化するこの池の佇まいは今津線の紛れもない主人公の一人。車窓に見るたびに今津線に乗っているんだなと実感する人、元気を貰う人、郷愁を感じる人…嬉しくなるしっかりした作品です。（井上正三）

幸せの弁天池　　大森 慈子

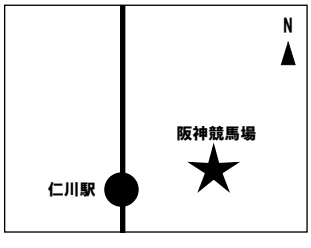
みんなが集い心癒される「幸せの弁天池」は私のパワースポットです。桜の季節に親子3人で三脚を立て記念撮影している姿を見かけ、とても微笑ましく幸福な風景だと思ったので絵にしました。

ええはがき研究会賞



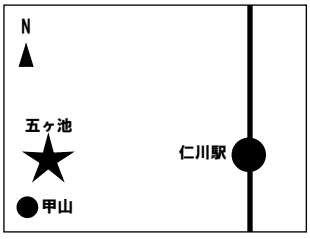
パドック　　松田 義英

秋晴れの阪神競馬場パドックにて。大屋根に降りそそぐ秋の陽光に光る馬体が印象的でした。



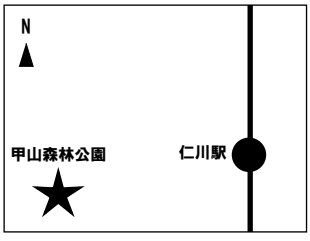
野に集う　　藤田 早利

初夏ともなると、湿原にも親子連れの家族や野鳥観察家などが訪れます。静かな散策や野鳥のさえずりを楽しめる場所です。



紅葉の甲山　　松田 義英

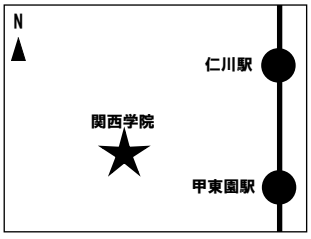
紅葉の中の森林公園の甲山をバックにシンボルゾーンには多くの人々が紅葉と森林浴に訪れます。



日本庭園の紅葉　　松田 義英

関西学院大学の日本庭園の紅葉。池のほとりを赤く染まったカエデ、モミジが目を楽しませてくれました。

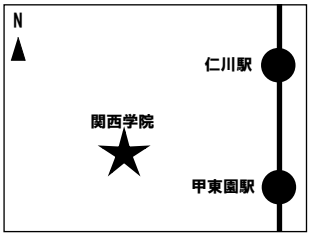
甲東園駅賞



審査員講評 着物の柄を感じさせる色彩が美しい。鮮やかな真っ赤な紅葉にはじまり、微妙な色の変化に魅了される。紅をより強調する緑の木々や池に浮かぶ落ち葉が画面に彩を添えている。点在する岩と灯籠がバランスよく画面を引き締め、日本庭園の伝統的な味わいを見事に謳い上げている。（有野永霧）

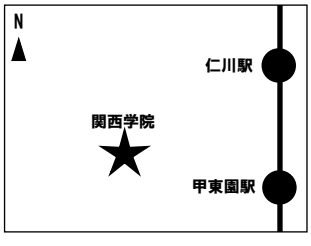
秋色・関西学院　　平岡 正己

昨秋ハイキングで関西学院大学に立寄り、すてきなキャンパスに魅せられてスケッチ。あっ美帆と圭一が歩いてる…？その後今津線で西宮北口へ。映画「阪急電車」がこの絵に花を添えてくれました。



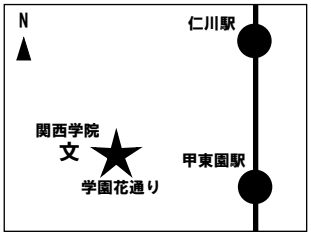
見張り番　　谷 章弘

私はハンキュウと聞くと体が反応します。通学は阪急電車、野球は阪急ブレーブス、アルバイトは西宮球場、なにもかも、なつかしい思い出です。昔からのヤシの木の見張り番がんばっています。



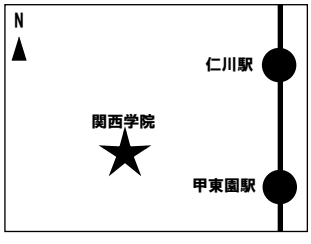
桜 ～もう一度一緒に～　　和芳 こころ

西宮へ越してきて、母と二人で訪れた桜の道。甲東園駅から坂を登った先にある桜並木の美しさは、言葉にならないくらい！闘病中の母が元気になって、また一緒に見に行きたいという願いを込めて描きました。

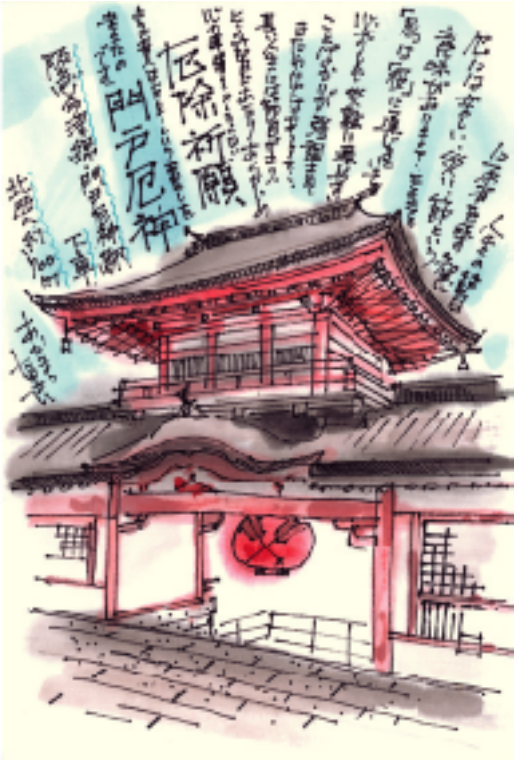


ランバース教会　　市場 さと枝

夫、息子、嫁の通った関学大には、何かあると度々訪ねます。その時はランバース教会の前で結婚式の人達が散々いました。なんともいえない雰囲気にスケッチをしました。

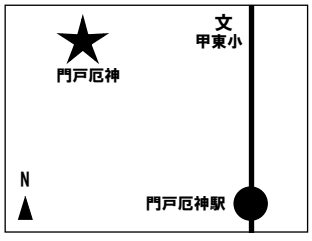


門戸厄神駅周辺の作品



門戸厄神　　赤松 隆誠

5年前に厄除け祈願に行ってから毎年行くところです。駅から門戸厄神に行くまでに屋台がたくさん出ていて楽しみにしています。本当に厄除けできました。

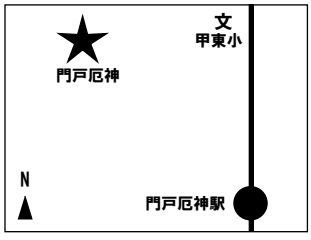


門戸厄神駅賞

審査員講評 拝見した時、思わずありがとうと口に出てしまう作品です。躍動的な線タッチ、さらりと落とされた色彩、じっくりと読みたくなる軽妙な文、どれも素敵です。軽快な画面構成力と確かな表現力を感じます。こんな絵を描くと、必ずや厄除けは成就されるでしょうね。（井上正三）

行者法要　　松崎 輝夫

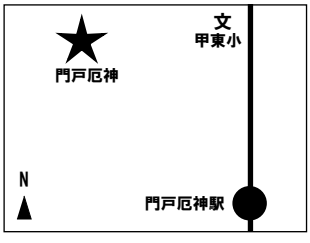
門戸厄神の行者様が春の戸開法要で。（秋には戸閉法要されます）



狸　　河内谷 滉介

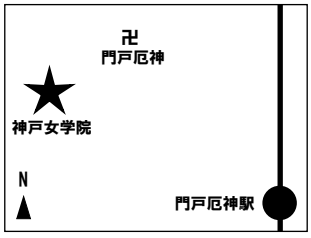
まるで誰かを見送っているみたい。

学生優秀賞



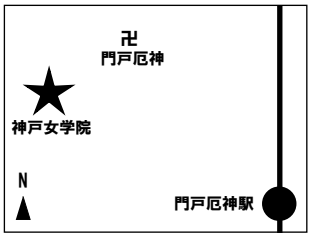
学舎緑風　　平岡 正己（3枚組）

映画「阪急電車」に関学は度々出てくるのに神戸女学院はちっとも出てこない！同学院出身の友人の奥さんはおかんむりとか。その無念を晴らさんと、許可をとってスケッチ。緑風の中女子学生に囲まれて充実の一刻でした。



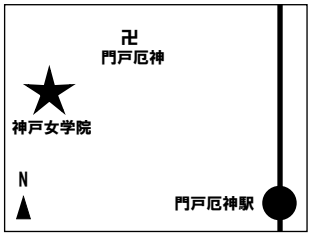
季節のバトン　　仁井 祥子

秋と冬のちょうど境い目で、イチョウからツリーに季節のバトンタッチをしている瞬間です。ツリーのオーナメントに混じって、実はイチョウの葉もくっついていました。



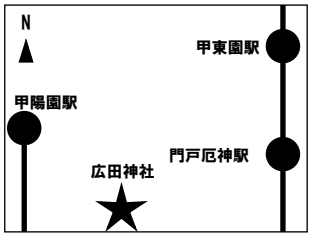
心のある場所　　岡田山 めぐみ（2枚組）

学校を卒業して20年余り、関西を離れて10年以上の月日が経ちました。映画「阪急電車」を見て思いました。いつになってもきっと変わらないのは、今津線の時間の流れ方と母校のたたずまいではないかと…。



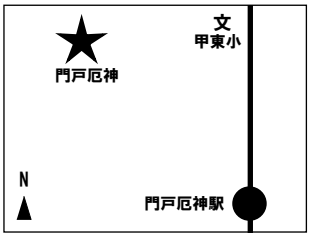
田植えの頃　　藤田 早利（2枚組）

農村の田植えや稲刈りも機械化されていますが、街中で古くからの伝統を思い起こす行事です。地元の中学生たちも参加して行われています。



門戸厄神　　岡島 信博

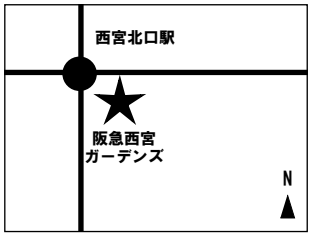
家内の実家が門戸厄神近くのため再々おまいりに行っていた。45年前から変わらない願い事「家内安全」にと手を合わせ、今も元気に楽しい毎日を過ごしているのも厄神さんのおかげ。



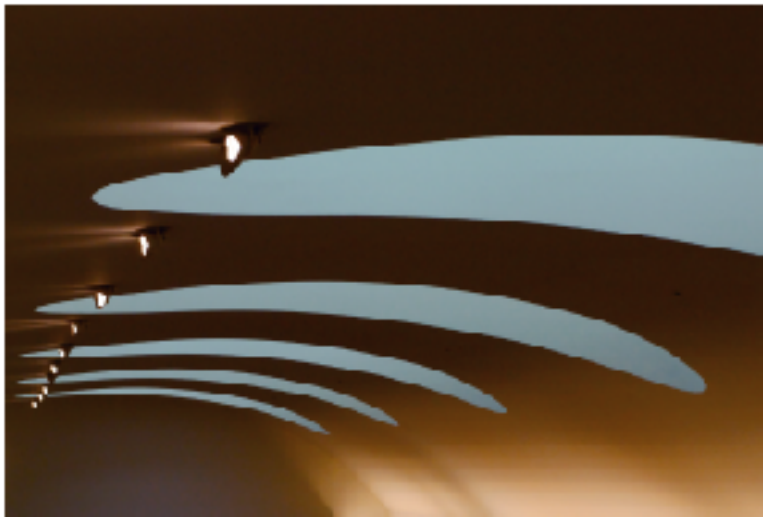
幾何学的空間　　中村 達郎（3枚組）

定年退職して阪急西宮ガーデンズのカルチャースクールに通い始めました。念願の写真教室です。ガーデンズにはフォトジェニックな被写体がいっぱいあり、毎回、カメラをぶら下げて通っています。

西宮北口駅賞



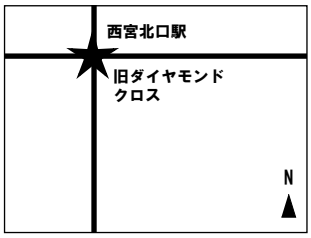
審査員講評 西宮北口駅の人工的な駅の空間の中に、見事なデザイン美を発見している。俯瞰するとデザイン的な表現になることを熟知した撮影者の美的感性がすばらしい。白いテーブルのフレーミングがおしゃれで、憩う人物を配することで、構内デザインの発見にとまらず、写真家の視点の存在を示しているところに意義を感じます。（有野永霧）



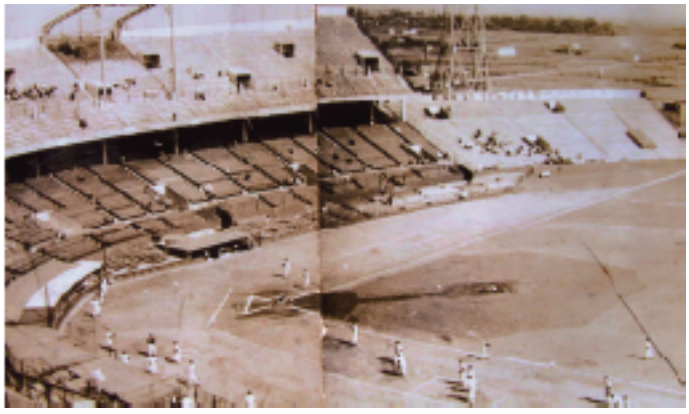
懐かしいダイヤモンドクロス　中筋 格

鉄と鉄がぶつかり擦れあう音が懐かしい。電車は本線が3000系、今津線は2000系と800系だ。

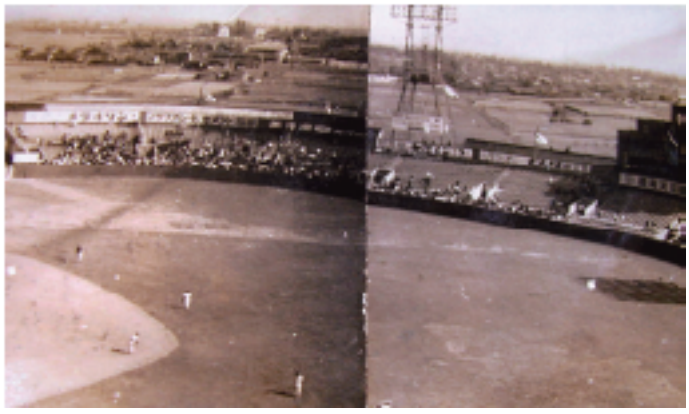
歴史・思い出賞



思い出の西宮球場　岡田 保造（3枚組）

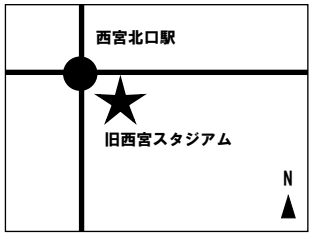


西宮球場は今では到底想像できない田園風景の中にあった。球場には1953年にナイター照明が取り付けられ、当時日本一の明るさと言われた。（撮影 1956年ごろ）



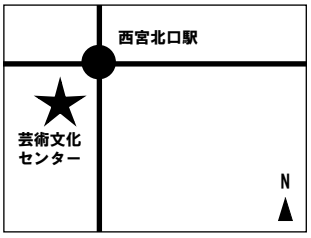
野球少年だった私は阪急ブレーブスのホームグラウンドだった西宮球場へ足しげく通った。当時の選手は阪急電車に乗って球場へ通っていたので電車に乗るのが楽しみだった。

アメリカ博覧会が1950年3月から約3ヶ月間、西宮球場を中心に開催された。戦後初の本格的な博覧会だった。ほとんど記憶に残っていないが、ホワイトハウスが建っていたのを思い出した。



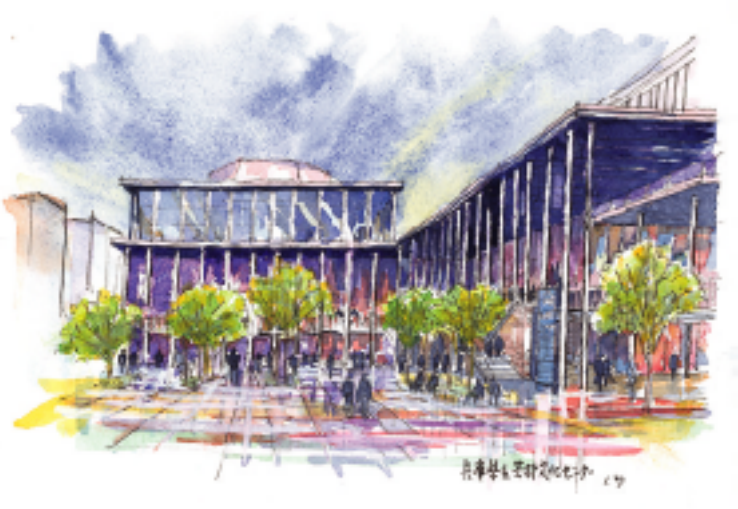
芸術文化の西宮北口駅　（匿名希望）（3枚組）

演奏の瞬間をとらえました。ピアノは一人で演奏するオーケストラといわれるほど、とても難しい楽器の一つとして知られています。演奏中の手の動きは滑らかになったり、激しく動いたりと音色を巧みに操ります。



駅からの連絡通路で行けるこの場所は芸術文化の拠点として、音楽や演劇などが盛んに行われています。そのホールはとても美しく、息をのむものでもあります。これから行われるピアノコンサートの一幕をとらえました。

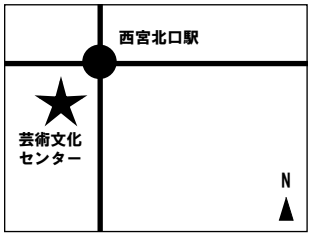
演奏される曲の美しさをピアノの造形美で表現しました。どの曲が演奏されているかはあなたの想像次第です、たまには現実を忘れて音楽や歌劇などに浸ってみるのもいいかも？ここは芸術文化の街、西宮北口です。



兵庫県立芸術文化センター

山品　一雄

阪神淡路大震災からの心と文化の復興のシンボル「兵庫県立芸術文化センター」として開館した。県民とともに創造する「パブリックシアター」を目指し、大中小の3ホールひとつを阪急Gが冠企業として実績を上げている。

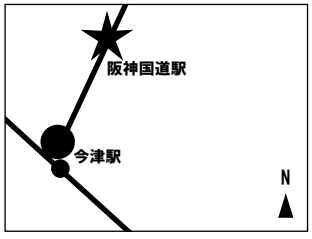


阪神国道駅周辺の作品

阪急　阪神国道駅　　東 昭

今からおよそ60年前、阪神国道駅の南200mくらいにある津門小学校に入学した。終戦後の焼け野原でよく遊んだ行動範囲に、この阪神国道駅があった。今でも思い出の場所として、いつまでも気になる高架橋となっている。

阪神国道駅賞

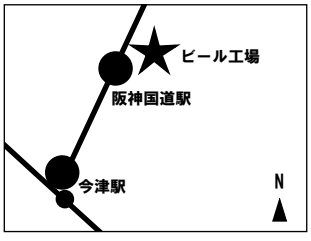


審査員講評 地域イメージをとらえるのが難しい阪神国道駅界隈を、自分史のなかでしっかりと切り取った作品です。スケッチも格式ばらない懐かしいタッチ。小学生の目には、高架を渡る阪急電車の力強い姿がかっこよく映ったのではないでしょうか。電車を見上げる親子の姿が、作者の思い出のワンシーンのようです。（杉本容子）

ビール工場　　奥村 誠

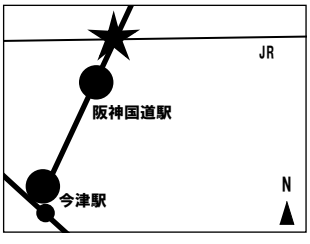
3年程アサヒビールの前のマンションに住んでいました。風向きによってはビールのいい香りが流れてきました。撤退するそうですが、寂しいことです。

最優秀賞 絵画部門



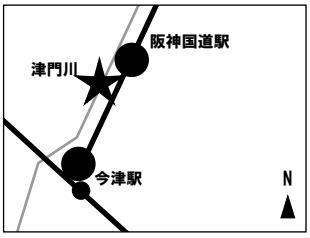
交差橋　　戸間 正隆

鉄橋を鳴らしてゆっくりと通り過ぎる今津線。交差するJR線は猛烈な速度で走り抜ける。同じ鉄道でありながらまったく違う息遣いを感じさせる一瞬をとらえた。



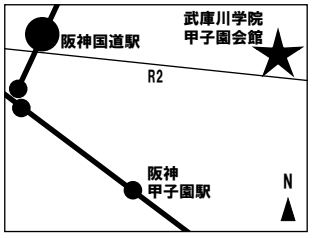
津門川に架かる橋　　松崎 純治

津門川には多くの橋が架かり、多くの人々が行き交います。生活の中に橋が溶け込んでおり、この地域ならではの風景です。



冬の紅葉　　佐伯 孝司

甲子園会館の冬の特別公開。照明に浮かびあがる庭園越しに見る建物の綺麗な姿は後世に残したい西宮の財産の一つです。

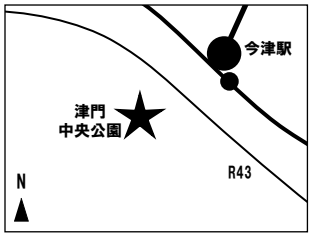


黄昏　　鈍 人（3枚組）

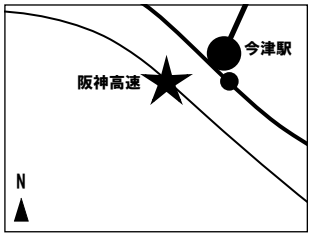
今津駅賞

自宅横を流れる津門川の下流にある西宮市環境衛生局の煙突から出る煙と夕焼け。

自宅の隣にある津門中央公園内にある野球場と沈みゆく太陽。



自宅北側を走る阪神高速道路の壁面に夕日が反射して黄金色に染まっています。

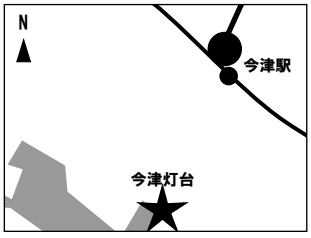


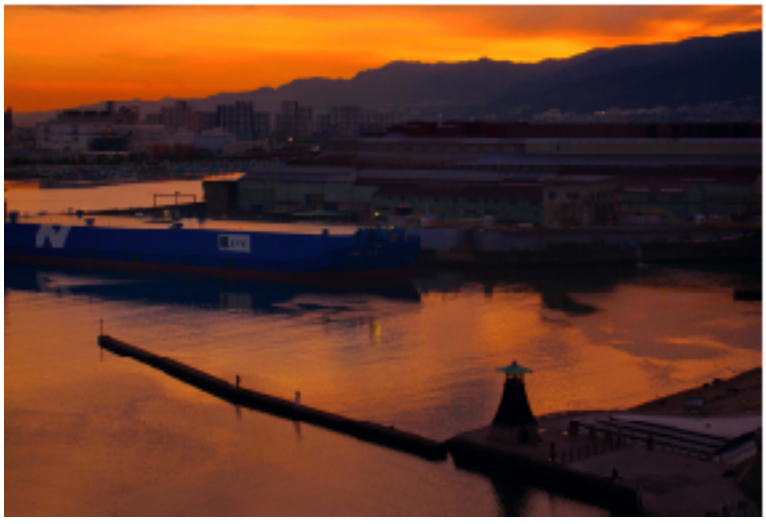
審査員講評　これも本の装丁になりそうな絵柄だと思いました。装丁にするなら断然2枚目です。読み応えのある経済小説のカバーがこの写真だったらぞくぞくします。作者が池井戸潤さんや楡周平さんだったら即買いです。（有川 浩）

時を超えて　　谷川 憲一（2枚組）

今津港を静かに見守り、今日もその灯をたやすことなく、航路標識として今でも立派にその役目を果たしています。この今津灯台は歴史的にも貴重で木製灯台としては日本最古の現役灯台だそうです。

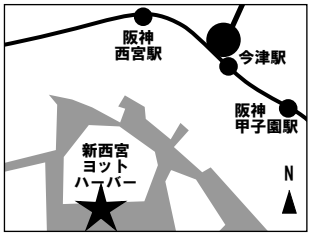
審査員賞
有野永霧先生





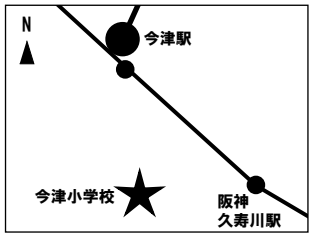
朝の海　　佐伯 知美

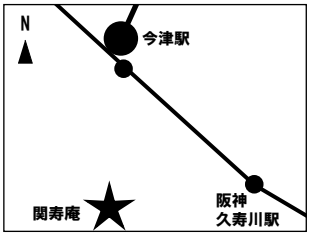
大好きな潮の匂いと海。ヨットが気持ち良さそうに浮かぶ姿にどこか異国の街に来たような錯覚を覚えるほど雄大な風景に酔いしれました。

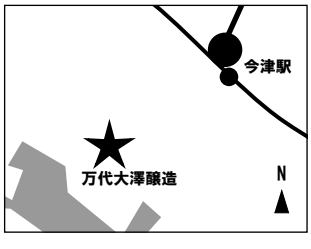


酒造りの町探訪　　西岡 正興（3枚組）

今津駅から南側一帯はかつて酒造りの町として栄え、今も多くの酒造会社が健在で昔の活気を伝える木造の洋館や灯台も残る。これらの町並みを巡っていると、酒造りで賑わっていた頃の空気がほのかに漂ってきて楽しい。







審査員の先生方からのメッセージ

コンテストの審査員の先生方からいただいた、コンテストを振り返ってのメッセージをご紹介いたします。

有川 浩先生 （作家）

写真や絵に造詣が深くないので、小説家的な視点で審査に参加させていただきました。技術的には他にも優れている作品がたくさんありましたが、何らかの意味で物語が内包されているということが選んだ基準です。コメントを差し上げたのは四枚ですが、他にも物語を感じた作品はいろいろあります。写真や絵から物語を読み取るのは、小説を読むのとはまた一つ違った面白さがありました。貴重な体験をありがとうございました。

■ 有川 浩(ありかわ ひろ)先生 プロフィール

高知県生まれ。映画「阪急電車～片道15分の奇跡～」の原作『阪急電車』の著者。『塩の街』で電撃小説大賞＜大賞＞を受賞し、2004年作家デビュー。「図書館戦争」シリーズや『三匹のおっさん』『植物図鑑』『キケン』など著書多数。『フリーター、家を買う。』は連続ドラマ化された。最新刊は故郷の高知を舞台にした『県庁おもてなし課』。

有野永霧先生 （写真家）

映画でも話題の今津線。しかし前回の宝塚線よりは距離も短く、地域の変化が乏しいような印象があり、どのような写真が集まってくるのか楽しみでもあり不安でもありました。ふたを開ければ、写真愛好家の皆さんの阪急電車と地域に対する愛にささえられ、期待以上の作品が多数集まりました。

審査をしていて楽しかったのは、まさに絵葉書的であると思えるシーンを見事に写している写真に出会ったときでした。さらに興奮したのは、想像もしなかったような光景を写真家の独自の視点で展開している作品に出会ったときでした。皆さんもこれらの写真を見て、今津線の魅力を再発見してみてください。

■ 有野永霧(ありの えいむ)先生 プロフィール

1941年兵庫県生まれ。大阪学芸大学(現大阪教育大学)卒業。83年タイムライフ写真年鑑新人賞、94年第19回伊奈信男賞受賞。国内外で「虚実空間・都市　日本編」「空蝉の都市　アメリカ編」「無名のアースワーク 地中海編」など多数の写真展を開催し、写真集に「虚実空間・都市」「都市からのメッセージ」「都市」「虚実空間・空蝉の都市」「虚実空間・空蝉の風景」などがある。現在、大阪芸術大学写真学科教授をつとめる。

井上正三先生 （画家）

応募作品を見させていただいて、沿線にはこんな風景があったのかと驚く一方、見慣れた風景が登場すると、何か特別な場所を見る思いにもなり、改めて今津線を見直す機会になりました。有川浩さんに、今津線という路線が人の生活模様の舞台としての動線になる面白さと意外さを教えられ、沿線の魅力を改めて見直したところでしたが、今回の出品作品は、単に、今津線利用者の好きな風景作品ということではなく、沿線地域の持つ歴史風土、郷土愛、町の理念を動機とする作品も数多くあり、そういった思いを育んできた鉄道と沿線地域の方々の有形無形の関わりがテーマであったと感じています。楽しいコンテストをありがとうございました。

■ 井上正三(いのうえ しょうぞう)先生 プロフィール

1944年生まれ。芦屋市在住。1994年に絵はがきシリーズ「風のたより」初出版。宝塚阪急百貨店で「阪急沿線スケッチ絵はがき原画展」を毎年開催。その他、阪神間で多くの個展を開催している。郵政省の絵はがきやモロゾフ製菓のパッケージデザイン、芦屋市や宝塚市の広報誌などにも数多く採用され、2002年には、芦屋市長から米姉妹都市モンテベロ市長に水彩画「芦屋川」が寄贈されている。

杉本容子先生 （大阪ええはがき研究会）

2回目を迎えたええはがきコンテスト。観光PR用の写真とは違う「ええはがき」とは何か、まちの魅力を切り取るとはどんなことかということが浸透して、クオリティの高い応募作品が多かったように感じます。入賞作品を第一回のものに並べてみれば、阪急沿線のまちの魅力の多様性がより感じられ、まちの魅力をとらえる視点のユニークさもいっそう増していることがお分かりいただけると思います。

今後もええはがきコンテストを続け、個性豊かなまちの魅力が集結していくことで、阪急沿線が住んでみたいまち、行ってみたいまちになっていくことを期待しています。

■ 杉本容子(すぎもと ようこ)先生 プロフィール

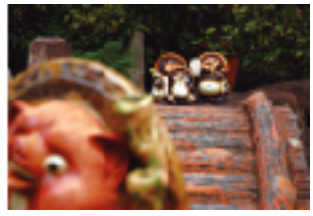
1975年神奈川県生まれ。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。工学博士。一級小型船舶操縦士。国内旅程管理主任者。まちづくりコンサルタントとして大阪の水辺再生や歴史的街なみづくりに関わるかたわら、大阪ええはがき研究会など、アフターエイトに大阪のまちをおもしろくするNPO活動に積極的に参加。2009年に新設された大阪府都市魅力創造局にて、民間からの特別任用により、都市魅力プランナーとして企画調整を担当。

映画「阪急電車 片道15分の奇跡」公開記念
阪急今津線（西宮北口～宝塚間）開業90周年記念
今津線　ええはがきコンテスト入選作品集

発行　2011年9月
編集・発行　阪急電鉄株式会社 都市交通計画部
大阪市北区芝田1-16-1
TEL　06-6373-5206
URL　http://rail.hankyu.co.jp/eehagaki/

Kotoen

Mondo-yakujin



Nishinomiya
-kitaguchi

Hanshin-kokudo

Imazu

阪急阪神
未来のゆめ・まち
プロジェクト

私たちは、未来へつなぐ
「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。